

都道府県医師会
担当理事 殿

日本医師会常任理事
濱口 欣也
笹本 洋一
(公印省略)

妊産婦の劇症型 A 群溶連菌 (GAS) 感染症罹患の注意喚起について

今般、日本産婦人科医会が実施した事業において、劇症型 A 群溶連菌感染症 (GAS) による妊産婦の死亡が 2023 年 7 月から 2024 年 3 月までに 5 人報告されていることを踏まえ、同医会及び日本産科婦人科学会の連名にて本会に対し別添のとおり標記の協力方依頼がありました。

GAS について、多くは上気道感染症状で発症し、上気道に感染した溶連菌が血流を通じて妊娠子宮へ到達し、子宮内感染を起こすことによって母児ともに致死的な転帰を来すことのある疾患で、疫学的に妊産婦はハイリスクとしています。

報告例では、発熱、咽頭痛、消化器症状で一般内科を受診し、数日してから胎児死亡、播種性血管内凝固症候群 (DIC)、多臓器不全で産婦人科を受診し、妊産婦死亡となっている症例が目立っているとされております。

このような GAS に伴う妊産婦死亡を減少させるためには、早期診断、積極的な治療が不可欠であり、産婦人科医のみならず、上気道炎などで妊産婦を診療する医師の協力が必要としています。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、下記の内容について、郡市区医師会及び関係医療機関に対する周知協力方、ご高配のほどお願い申し上げます。

記

妊婦が発熱やのどの症状を訴えた場合

- 家族など周囲に溶連菌による咽頭炎などがなかったかを聞く
(妊婦の感染はほとんどが経産婦である)
- 頻回に簡易検査キットで確認する (偽陰性も多い)
- 妊婦で溶連菌感染を疑う場合はペニシリンを積極的に投与する
- 妊婦の GAS は、周産期センターではなく、救命センターに搬送する

(日本産婦人科医会ホームページ)

○劇症型 A 群溶連菌感染症による妊産婦死亡報告の増加傾向に対する注意喚起 (2024 年 4 月) :

<https://www.jaog.or.jp/about/project/document/topics202404/>

○母体安全への提言 2019_提言 3、2018_提言 5、2017_提言 2、2013_提言 3 :

<https://www.jaog.or.jp/about/project/document/teigen/>

(参考)

○厚生労働省ホームページ：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STTS) :

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

○劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STTS) の診療指針 :

<https://dcc-irs.ncgm.go.jp/material/manual/stss.html>

○劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) について :

令和 6 年 6 月 27 日付日医発第 584 号 (健Ⅱ)

○感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について :

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-06.html>

2024年7月17日

公益社団法人日本医師会
会長 松本 吉郎 先生

公益社団法人日本産婦人科医会
会長 石渡 勇
(公印省略)

公益社団法人日本産科婦人科学会
理事長 加藤 聖子
(公印省略)

妊産婦の劇症型 A 群溶連菌(GAS)感染症罹患について貴会会員への注意喚起のお願い

拝啓 小暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より産婦人科医療に多大なご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、日本産婦人科医会では 2010 年から妊産婦死亡報告事業を行っております。報告された事例は、匿名化し、産婦人科医以外の診療科も加えた 40 名前後の委員で構成されている妊産婦死亡症例検討評価委員会において、検討・評価されています。

さて、2023 年 5 月より新型コロナウイルス感染症が感染症法の 5 類に分類されたことを受けて、感染対策が緩和された影響と思われる呼吸器感染症が爆発的に増加しています。妊産婦死亡につながる重要な疾患に、劇症型 A 群溶連菌感染症 (GAS) があります。この多くは、上気道感染症状で発症し、上気道に感染した溶連菌が血流を通じて妊娠子宮へ到達し、子宮内感染を起こすことによって、母児ともに致死的な転帰を来すことのある疾患です。

先の報告事業において 2023 年 7 月から 2024 年 3 月までに妊産婦 5 人の死亡が報告されています。疫学的には妊産婦はハイリスクであります。報告例では、発熱、咽頭痛、消化器症状で一般内科を受診し、数日してから胎児死亡、播種性血管内凝固症候群 (DIC)、多臓器不全で産婦人科を受診し、妊産婦死亡となっている症例が目立っています。このような GAS に伴う妊産婦死亡を減少させるためには、早期診断、積極的な治療が不可欠であり、産婦人科医のみならず、上気道炎などで妊産婦を診療される先生方のご協力が必要と考えます。以下のメッセージを多くの貴会会員にお伝えいただき、わが国の妊産婦死亡の減少のためにご協力いただけますようお願い申し上げます。

敬具

妊婦が発熱やのどの症状を訴えた場合

- 家族など周囲に溶連菌による咽頭炎などがなかったかを聞く
(妊婦の感染はほとんどが経産婦である)
- 頻回に簡易検査キットで確認する (偽陰性も多い)
- 妊婦で溶連菌感染を疑う場合はペニシリンを積極的に投与する
- 妊婦の GAS は、周産期センターではなく、救命センターに搬送する

参考：劇症型 A 群溶連菌感染症による妊産婦死亡報告の増加傾向に対する注意喚起(2024 年 4 月)

<https://www.jaog.or.jp/about/project/document/topics202404/>

母体安全への提言 2019_提言 3、2018_提言 5、2017_提言 2、2013_提言 3

<https://www.jaog.or.jp/about/project/document/teigen/>